

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372700641		
法人名	株式会社 いわい		
事業所名	グループホームにこここだいとう		
所在地	岩手県一関市大東町猿沢字板倉60-1		
自己評価作成日	平成26年1月17日	評価結果市町村受理日	平成26年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&ji_gyosyoCd=0372700641-00&PrefCd=03&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の運営理念に掲げている『地域に溶け込んだホーム』をめざし、地域との交流を大切にしている。また、ドライブ等の外出も支援し社会との交流が保てるよう努めている。地域の防災協力隊の皆さんには年2回の避難訓練にも参加して頂き、推進会議や訓練終了後に改善個所をアドバイス頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームにこここだいとうは、大東町猿沢地区に約11年前にできたホームである。この地区には唯一の高齢者事業所ということもあり、地域の方々も望んでいたことから、開設当初より地域からの関心もあり、たくさんの協力も得られている。ホームも、当初から「地域」との共生を掲げ、取り組みを行っている。地域の保育園、小学校、中学校、高校との慰問等をはじめとする交流は、利用者の笑顔の「種」となる。また、日々のケアの中においても、利用者が自分らしく生活出来るよう、細かな配慮(物事の決定は利用者にしていただく等)により、健やかに生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に溶け込んだホームを目指しており、その理念を職員全員で共有するために毎朝唱和し意識付けを行っている。	開設から約11年となる当事業所は当初からの理念として地域との関わりを大切にしている。様々な行事を考える上でも地域を意識しており、交流が図られている。保育園、小・中学校、高校との交流もあるほか、新年交賀会等の地域住民との交流も盛んである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に出展したり、小学校の運動会に招待され参加している。逆に小学校からの慰問にも対応し、交流を深めている。	地域の文化祭に利用者の方の作品(習字、手芸品等)を出展することが恒例になっているほか、高校の吹奏楽部の慰問演奏、峠かぐらの獅子の訪問、小学生らの慰問交流があったり、日常的にも地域との付き合いがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において認知症の症状について説明し理解して頂けるようにしている。また、地域サロンより講義を依頼され、認知症についての関心がより深まっていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告や防災訓練等について報告し意見を出してもらいサービスの質向上を目指している。	会議の形式としては、事業所からの現状報告等を行い、参加者からの意見や提言を頂いている。具体的などころとしては、区長さんから、事業所の祭りの案内を区長会に(事業所の人)が参加して、直接それぞれの地域の代表に話してみるの(集客等)効果的であるとの意見を貰い、参加し案内をしたこともある。行政の大東支所からの参加もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂いており、空床の際の相談や自施設での職員の資格取得についての報告などを行っている。	行政との関係をより良く保つため、利用者の状況等の報告はもとより、職員の資格取得の状況の報告など、事業所全体に関わることの報告をし、適宜助言を頂いている。運営推進会議にも大東支所の係長さんに参加をしていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については道路に面している事もあり、防犯上の問題からオートロックに変更したが、それ以外は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関わる内部研修(ケアミーティング、業務ミーティング時)を行うなど、注意喚起やこのことについて「考える機会」を持っている。拘束の内容な範囲等についても考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、高齢者虐待防止について職員間で日頃から話し合ったり声掛けについても気になる箇所はお互いに注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後も講習会などに参加し、制度について理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学は随時受け付けており、契約時にも読み合わせを行い、納得して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	広報や近況報告、推進会議の議事録を送付し、日頃の様子を伝えている。また、ご家族や利用者の意見は、担当者会議や面会にいられた際に伺い、運営に反映させている。	利用者や家族への連絡、報告等をまめに行うことでいい関係が作られている。利用者のお薬や病院の件で、家族から意見を頂き可能な範囲での対応を行い利用者の状況が良くなってきている事例もある。また家族に対して「満足度アンケート」を実施し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務ミーティングに社長も出席し職員の意見を聞いている。業務改善についても速やかに対応してもらっている。(夜勤者の補助職員の採用等)	管理者は職員への声掛けを行うなど、良好な関係を保てるよう心掛けている。日常のケアの中での必要物品(シャワーチェア等)についても必要に応じ、購入してもらえことや、勤務の体制についても夜間の職員の心的・身体的負担軽減に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望に沿って夜勤回数を決定したり、勤務変更にも柔軟に対応している。また、やりがいを感じてもらえるよう役割分担もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足により外部への研修にはなかなか参加させる事が出来なかったが、ミーティングの場で職員が持ち回りで勉強会を開催させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の定例会や他GHの推進会議に出席する事により情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談時には時間の許す限り家族や本人から要望や考えを伺っている。情報提供票や主治医意見書等からの情報把握に努め本人を理解し今までの生活を出来るだけ継続する事で安心して暮らして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から施設を見学してもらい情報交換しちる。入所後は本人が安心して暮らして頂けるようご家族に来所して頂き安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネや本人、家族からの情報提供や主治医意見書等を参考に、必要な支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの人生経験や知識などを教えて頂いたり出来る事を行って頂く事で「自分はここで必要とされている」という事を実感して頂けるよう努めている。理念にもある”共に笑い助け合い・・・”を実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り家族との交流を保てるよう状況報告を行い、面会・行事への参加を促し、通院だけでなく外食や外出を勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	近所の方が時々面会に来て話をしたり、紙芝居の読みかせをしてもらったりしている。	家族の協力のもと、利用者の馴染みの美容院へ行くことや、自身の畑の様子を見に行きたい方の希望に添うこと、お墓参りに行くことの支援を行っている。また「思い出ツアー」ということで、利用者が昔、勤めていた宮城県・鳴子の温泉地へドライブに行ったりもしている。年々、思い出せなくなってきたが、「馴染みの場」への支援に取り組み、本人の心に寄り添うケアを目指している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から仲間としての関係性や席などを配慮し、関わりを深められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族の相談に応じたり他事業所と連絡調整を行い、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の言動や表情からその方の真意をはかり、確認している。それが困難な方は家族からも情報を得るようにしている。	利用者の個別的な情報収集のため、センター方式の一部シートを活用している。普段の様子からの気づきや、家族からの情報により利用者個々の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自室に制作した手芸や家族の写真などを居室に飾ることによって安定した生活を図っている。情報提供票や関係機関からの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿って利用者の支援を行う事で出来る事出来ない事の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスと3か月ごとの計画の見直し、更新を本人・家族・主治医の意見などを取り入れるよう努めている。また、職員全員で話し合い、介護計画の作成を行っている。	定期的なカンファレンスと、介護計画の更新・見直しを行っている。利用者本人、家族、またケアマネジャーをはじめとする職員はもとより、主治医の意見を取り入れ、本人本位の計画を作成している。日常的な日課もプランの中に明確に示されることで、(利用者)関わりを持つ人達みなが(利用者)効果的に関わることが出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有の徹底のため、重要事項については必ず申し送りで展開している。日々の様子はケアプランに基づきチャートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方の方は施設で受診対応している。また、本人の好みによっては他の方とは違った食べ物を提供するなど配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校との交流、地域の店の活用、散歩や幼児などを楽しむことで協働を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を重視しかかりつけ医を受診している。家族が地元の方は、なるべく家族に付き添って頂いている。	利用者のこれまでの「かかりつけ医」を受診していただくようにしている。職員が通院介助を行う場合「御机下」で医療機関に情報提供している。内科の他に、皮膚科などへも通院の方がいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の定期訪問で利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。利用者に特変が生じた場合、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には情報提供を行い、入院後は病状を把握できるよう面会や連絡を密にするよう努めている。早期退院に向けて主治医や病院関係者と連携を取りながら方針を共有し施設で出来る事を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対応できるよう指針を定め、事業所が対応出来る最大のケアに努める。本人や家族の希望を重視し主治医と連携を取りながら方針を共有し施設で出来る事を行っている。	看取りに関する指針を定めて体制をとっている。終末期に向けたケアが始まる可能性がある場合は、本人を取り巻く家族や主治医などとも話し合いを重ね、利用者本人の意向に出来る限り添えるような最期を迎えていただけるよう考え、ケアにあたっている。折に触れ、重度化や看取りに関する勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備えて救命救急講習を受講している。心肺蘇生法のマニュアルを目につきやすい所に掲示し緊急時に備え復習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を消防職員立ち会いの下、年2回実施している。利用者、職員、地域の防災協力隊、運営推進委員の方々に参加してもらっている。	年に2回の防災訓練を行っており、消防の職員も立ち会い、助言等を頂いている。地域の方による「防災協力隊」を組織立て、13名程の方がそのメンバーになってくださっており、訓練時にも可能な限り協力を頂いている。震災以降、備蓄等についても、食料品やオムツ等しっかり、備えている。前回の目標達成計画(夜間や暗闇時の利用者の様子の確認)へも取り組みを行っており、検証し、活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護について掲示し、意識できるように努めている。契約時に秘密保持、個人情報保護法遵守についての同意書に説明し同意を得ている。	利用者への声掛けや、日常的な会話を持つ時などでも、職員それぞれの家族の延長で話しているような時もあり、(他の職員が)行き過ぎている場合には声掛けし、注意するようにしている。利用者は、お名前と呼んでいるが、本人や家族の希望に添い、呼びかけ時の方法(敬称等)も決めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛けし焦らせないように配慮している。意思表示の困難な方は選択肢を設けてご本人が自己決定できるように努めている。(食事、衣類、居場所等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣や体調に配慮しながら出来るだけ柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれに関心にならないように、行事への参加や外出の際は髪型を変えたり、化粧をしたりしておしゃれを楽しんで頂く。定期的に馴染みの美容院へ行かれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食材の下ごしらえをしたり食器洗いや食器拭き等出来る事はやって頂いている。無理のない支援を行っている。	食事の準備に参加することで、利用者個々の役割を大切にしている。味付けしたものを味見していただいたりしている。献立は、1日3食3日を職員が交代で、決めている。行事食の提供や、3月3日にはお茶会を行うなど、「食」の楽しみを感じて頂いている。外食を行うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	午前と午後の2回おやつ時間を設けている。随時水分摂取を行い、介護記録に1日の水分摂取量を記入し、利用者個々の水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き等の声掛けを行い職員が見守りや、必要時介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの残存機能や状態を考慮しながら出来るだけトイレでの排泄を促している。トイレの訴えが無い方については時間を見計らって声掛け誘導を行っている。	個々の排泄のパターンの把握をするため、排泄チェック表を活用している。夜間のトイレ誘導は、1回は声掛けして促すが無理強いはいはしないで対応している。日常的な声掛けについても利用者に選択して頂き、行動に繋がるように行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維質を多く含む食品を取り入れるなど便秘予防に務めている。なるべく自然排泄を心掛けているが、必要な時は主治医やナースの指示の下、下剤を服用して頂いたり、ナースに浣腸を頼んだりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望を考慮し、入浴を行っている。拒否があれば無理強いせず、他の方と交換したり時間をずらすなどして対応している。	利用者それぞれに週に2~3回は入浴して頂けるよう支援している。一日3名位ずつの入浴となっているが、入浴の順番も利用者に決めていただくなど、常に選択の主役は「利用者」となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を検討し気持ちよく休んで頂くよう支援している。また、必要時眠剤を服用している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤飲や飲み忘れが無い様に服薬時には必ず声に出して確認を行っている。錠剤が困難な方は主治医と相談し粉碎してもらい対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞や本を読む、テレビを観る、洗濯物を畳む等、1人1人の力を活かした役割を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候、状況に応じ散歩やドライブ等支援している。また、墓参りや遠方の家族から協力を得て外泊や外出の支援をしている。	日常的な散歩は季節により行ったりしているほか、診療所へ出かける時、産直へ買い物に行くときなど、職員から声掛けして、一緒に出掛けたりしている。年々、外出したがる傾向もあるが、職員は外出に向けた支援も行うよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方の財布を事務所で職員が管理しているが、自分で現金を持たれている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や必要に応じ電話のやり取りをしたり、ご家族から手紙を貰ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エレベーターホールには金魚が泳ぎ、居間には鉢植えを飾り、どちらのお世話も利用者の方の仕事です。トイレや廊下はこまめに掃除し、気持ちよく使っていただけるよう努めている。温湿度計をチェックしながら居室や居間の温度や湿度を管理している。	職員が、共用空間作りで心がけていることは、事業所の各所に一人用のいすを置いたり、ベンチのような腰掛けを置くことで、自室以外での一人の空間を作れるよう支援している。また、季節の装飾(訪問時は桃の節句を控えていた)も施され、上品で、さりげない飾り付けがなされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には数か所にソファを、廊下にもソファや椅子を設置し、好みの場所で過ごして頂けるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごして頂けるよう出来る限り本人の好みに任せている。また、家族の写真や手芸作品なども飾っている。	利用者個々の部屋作りがなされている。ご家族の写真やお位牌、テーブルやイスを持ってきている方もいる。ラジオを聴く習慣がある方もおり、自室で聴いたりしている。個室が比較的広めなつくりであることから、ゆったりとした雰囲気のお部屋の印象がある。個室の利用者による掃除の見守り支援も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況や状態に合わせ環境整備に努めている。こんらんや失敗が生じた時は職員が話し合い、迷いや不安を取り除いて安全かつ安心して自立した生活が営めるよう工夫している。		